

物学的な性質も異なる。

本種の寄主範囲はシルバーリーフコナジラミと同様に広く、ナス科（トマト、ナス、ピーマン、シシトウ）、ウリ科（キュウリ、メロン）、アブラナ科（キャベツ、ブロッコリー）、ヒルガオ科（サツマイモ）、ユリ科（アスパラガス）、シソ科（シソ）、キク科（キク、ガーベラ）、トウダイグサ科（ポインセチア）など、多種の栽培作物に寄生する。野外での越冬については、現在調査中である。

5. 被害状況

他のコナジラミ類と同様、吸汁により生育を阻害する。また、成幼虫の排泄物はすす病を誘発し、葉や果実を汚すため、光合成の阻害や果実品質が低下を引き起こす。ピーマン、シシトウでは、多発すると葉や生長点の黄化、果実の着色不良となるが、シルバーリーフコナジラミの寄生によって発生するような極端な果実の白化は確認されていない。また、シルバーリーフコナジラミと同様、トマト等に被害を及ぼすトマト黄化葉巻病のウイルス（TYLCV）を媒介することが確認されている。さらに、ウリ類の黄化症の発生との関連が疑われている。

6. 防除対策

- (1) 苗からの持ち込みを防ぐため、購入の際はコナジラミの寄生の有無を確認し、寄生が疑われるものは使用しない。
- (2) 施設栽培では、防虫ネットや黄色粘着テープを設置する。また、ハウス周辺の雑草は増殖源となるので除草を行う。
- (3) タバココナジラミバイオタイプQは、シルバーリーフコナジラミに対して効果の高かったピリプロキシフェン剤（商品名：ラノー）や多くのネオニコチノイド系剤（商品名：アドマイヤー、アクタラ、ダントツなど）、エトフェンプロックス剤（商品名：トレボン）に対して感受性が低いことが報告されている。したがって、これらの薬剤による防除効果が低い場合は、他の薬剤に切り替える。
- (4) 薬剤感受性の更なる低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。また、抵抗性発達の恐れのない、気門封鎖などの物理的防除剤や昆虫寄生菌等の生物的防除剤も活用する。
- (5) 栽培終了後は、成虫の施設外への分散を防ぐため、株元を切断したうえで施設を密閉して蒸し込み、虫を死滅させる。



図1. タバココナジラミバイオタイプQ成虫



図2. 羽化直前の4齢幼虫(右)

表1 タバコナジラミ バイオタイプ検定(野菜茶業研究所調べ)

採取場所	採集植物	採集年月	バイオタイプQ発生ほ場数 /採集ほ場数	備考*
香南市	ナス	H17.11	1 / 1	Q
安芸市	米ナス、ナス	H17.12	2 / 3	Q、B
高知市	グロリオサ	H17.11	0 / 1	B
南国市	シシトウ	H17.11	4 / 4	Q
南国市	セイタカアワダチソウ	H17.12	(0 / 1)**	B
高岡郡津野町	ナス	H18.7	1 / 1	Q
南国市	ピーマン	H18.7	1 / 1	Q
土佐郡土佐町	トマト、露地ナス	H18.9	3 / 3	Q、在来系統

表2 タバコナジラミ バイオタイプ検定(高知県調べ)

採取場所	採集植物	採集年月	バイオタイプQ発生ほ場数 /採集ほ場数	備考*
安芸郡安田町	ナス	H18.6、11	2 / 2	Q、B
安芸郡芸西村	ピーマン	H18.8	1 / 1	Q
南国市	ピーマン、シシトウ	H18.7	3 / 3	Q、B
高知市	ピーマン	H19.2	1 / 1	Q
香南市	シシトウ、ナス	H18.12、H19.1	2 / 2	Q
長岡郡大豊町	米ナス	H18.9	1 / 1	Q、B
長岡郡本山町	米ナス	H18.11	1 / 1	Q、在来系統
長岡郡本山町	スイカズラ	H19.2	(0 / 1)**	在来系統
吾川郡春野町	トマト	H19.1	2 / 2	Q、B
吾川郡春野町	キュウリ	H18.10	(1 / 1)**	Q、B
土佐市	ピーマン	H19.2	1 / 1	Q
高岡郡郡日高村	トマト	H19.2	3 / 3	Q、B
高岡郡檮原町	米ナス	H18.8	1 / 1	Q
四万十市	米ナス	H18.12	1 / 1	Q
土佐清水市**	キュウリ、ナス	H18.12	2 / 2	Q、B

*地域内で発生が確認されたバイオタイプ

Q:バイオタイプQ、B:バイオタイプB(シルバーリーフコナジラミ)

** ()は野外における寄主植物上又はトラップ植物を用いてタバコナジラミを採集したもの。